


論文審査及び最終試験又は学力の確認の結果の要旨

①・乙	氏名	川原 洋	
学位論文名	Prognostic role of apolipoproteins on long-term major adverse cardiac events after percutaneous coronary intervention		
学位論文審査委員	主査	林 健太郎	
	副査	山崎 和裕	
	副査	岡本 貴行	
論文審査の結果の要旨			
<p>虚血性心疾患の二次予防としてスタチンで低比重リポ蛋白コレステロール (LDL-C) 値を低下させるが、経皮的冠動脈形成術 (PCI) 後の心血管イベントを完全に予防することはできない。アポリポ蛋白 (Apo) が残余リスク評価として期待されているが、PCI後についてはほとんど報告されていない。申請者は今回PCIを受けた患者について長期的な主要心血管イベント (MACE) とApoの関係について調査した。主要評価項目はMACE (心血管死、急性冠症候群、新規病変に対する冠動脈血行再建術)、副次評価項目は心血管死と急性冠症候群とした。PCIを受けた241人について平均2079日追跡し、MACEは78例発症した。多変量のCox比例ハザード解析でApo BがMACEの独立した予後予測因子であった。Apo B、Apo B/apo A1、LDL-C、LDL-C/高比重リポ蛋白コレステロール (HDL-C) を中央値で2群に分けて Kaplan-Meier 推定法を行い、主要評価項目ではApo B、Apo B/apo A1、副次評価項目ではApo B/apo A1のみ有意であり、LDL-C、LDL-C/HDL-Cでは統計学的差はなかった。この結果から、申請者は、PCIを受けた患者では、Apo BおよびApo B/apo A1はLDL-CおよびLDL-C/HDL-Cよりも長期的なMACEの予後予測因子として優れていると結論付けた。本研究はPCI後の残余リスク評価としてアポリポ蛋白の有用性を報告することに成功した。</p>			
最終試験又は学力の確認の結果の要旨			
<p>申請者は冠動脈治療後の患者の血中アポリポ蛋白サブタイプを測定し、コレステロールサブタイプの値よりも心疾患の予後と相関することを示した。プレゼンテーションは内容を理解しやすく、質疑応答も的確であった。関連知識も豊富であり、学位授与に値すると判断した。 (主査 林 健太郎)</p> <p>申請者は、経皮的冠動脈形成術後の心血管イベントの発生リスクに関して、従来から言われていたコレステロールのサブタイプの値や比よりも、より相関する因子としてアポリポ蛋白に着目し単一施設ではあるが、多くの症例に対して長期間追跡をおこない有用性を見出した。等研究において十分な関与とその明瞭な発表を行い、加えて豊富な関連知識並びに的確な質疑応答が行えていたことから、学位授与に値すると判断する。 (副査 山崎 和裕)</p> <p>申請者は、PCI後のMACEとアポリポ蛋白の関係について長期的に調査を行い、Apo BおよびApo B/apo A1がMACEの予後予測因子として有用であることを示した。豊富な関連知識を備え、明瞭な発表と的確な質疑応答を行い、学位授与に値すると判断した。 (副査:岡本 貴行)</p>			

(備考) 要旨は、それぞれ400字程度とする。